

## 奈良県立大学の学生が子ども農山漁村交流体験プロジェクトの受入をサポート

### < 奈良県 >

市町村・集落の名称	十津川村・神納川地区（大字内野、山天、三浦、五百瀬、杉清）
協働の相手（企業や大学等）の名称	奈良県立大学
仲介者・コーディネーターの名称	奈良県立大学 伊藤教授 奈良県ならの魅力創造課 福野主任調整員
協働のポイント	地域産業振興、教育・文化の発展、地域づくりなどの多様な分野において相互に協力し、地域社会の持続的な発展と人材育成を目的とする。
協働のきっかけ・経緯	平成14年度から、村教育委員会と同大学は地域の産業振興や伝統文化の再確認を行うため、地域創世塾を発足させ、村の良さを発信する取組を行ってきた。 平成20年度からは教育委員会だけではなく、村全体と大学全体との相互協力を図るため連携協力協定を締結。
取組の具体的な内容	平成20年度は、十津川村神納川地区で取組を始めた子ども農山漁村交流プロジェクト（小学生の長期宿泊体験）実施にあたり、体験プログラムの提案や受入時のサポート（安全確保など）を行う。
農村地域への効果	農山村地域では高齢者が多く、屋外での活動については適切な指導・安全確保が十分行えない状況にある。特に、50名以上の児童を受けいれる場合の人員が不足している状況であり、大学生がスタッフとして地域協力する事で、レクリエーションから体験指導までの長期宿泊体験を受け入れる事ができた。
都市部の主体（企業や大学等）への効果	田舎での通常の生活が、都会の子どもや学生にとっては、新鮮な体験であり、また、大学生にとっては体験指導者（ファシリテーター）の体験が人材育成のための研修の場になったと思われる。
仲介者等の役割	直接、大学と地域での交渉は距離・時間的な問題もあり難しい状況であるため、双方の意見を集約して妥協点を見出す。
今後の課題	継続的な取組が可能かどうか（大学4年間の学生生活で下級生・新入生などへ継続、伝達が可能かどうか）
関連事業（国・都道府県等）	子ども農山漁村交流プロジェクト（広域連携共生・対流等推進交付金）